

令和7年度 松原小学校 努力点とその推進計画

1 研究主題

「子ども中心の学び」を意識した学習活動の工夫
～「子ども中心の学び」に迫るための教師支援～

2 研究主題設定の理由

本校では、昨年度から、「ナゴヤ学びのコンパス」にも示されているように、自律して学び続ける子どもの育成を目指し、「子ども中心の学び」を意識した学習活動の工夫に取り組んでいる。

昨年度は、『「子ども中心の学び」を意識した学習活動の工夫』について研究に取り組む中で、教師一人一人の授業に対する考え方や子ども観の転換を図ることをねらいとして実践に取り組んだ。実践を朝の会や教科の学習など枠を決めずに取り組んだことで、様々な形の「子ども中心の学び」というものを模索することができた。成果として、子どもたちが自ら課題を見付け、それを解決しようとする姿や、学び方を選択する姿、自分の言葉で学習の目当てを立てたり、振り返ったりする姿などが見られた。

しかし、教師のどのような手立てや支援が子ども中心の学びにつながっていたのかが見えづらい部分もあった。自由に子どもに任せるのではなく、教師が行う様々な手立てや支援が、子ども中心の学びにどのようにつながっていくかを意識しながら実践することで、「子ども中心の学び」をより深く、具体的に考えていきたい。そこで、昨年度の研究成果を生かしつつ、今年度は「子ども中心の学び」に迫るために、教師がどのような手立てや支援を行うかというところに視点を当てて実践し、子どもたち自身が中心となって学んでいると実感できるような活動を工夫すべく、本研究主題を設定した。

目指す子どもの姿

自分たちが中心となって学んでいると実感しながら、生き生きと学ぶ子ども

3 研究の内容

(1) 方針

「ナゴヤ学びのコンパス」の実現に向けて、本校では5カ年計画で『「子ども中心の学び」を意識した学習活動の工夫』について研究に取り組んで行く。今年度は研究2年目である。昨年度の成果を踏まえ、特別活動や教科、総合的な学習の時間など、教科等を限定せずに教師がそれぞれ考える「子ども中心の学び」を意識した実践を行う。その中で、場の設定や環境設定、導入の工夫など、どういった手立てや支援が子ども中心の学びにつながったのかを考え、省察していけるようにする。今まで行ってきた指導方法の良いところにも目を向けながら、教師一人一人が、1年間の目当てをもち日常的に実践を積み重ねていけるようにしたい。

大きな成果を求めるのではなく、様々な手立てや支援を考え、実践し、振り返ることで、アップデートできるようにする。その中で、うまくいかなかったことについて

も、職員で共有することで、次の手立てや支援に皆で生かしていけるようにしたい。

教師が具体的な手立てや支援を意識して実践することで、より様々な形の「子ども中心の学び」ができるように、子どもたちにもアンケート等を取りながら検証し、次年度のテーマにつなげていきたいと考える。

研究主題：「子ども中心の学び」を意識した学習活動の工夫

1年目 教師のマインドセットを変える

2年目 「子ども中心の学び」に迫るための教師支援

3年目 学び方の習得・環境設定の工夫

4年目 学び方の追究・自己選択・自己決定する場面の工夫

5年目 目当て・ふり返り活動の工夫

(2) 進め方

① 日々の授業において

各教科・領域等の学習において、「子ども中心の学び」とは何かを考え、実践する。年間を通して一人一人が目当てを設定し、一人一実践に取り組む。

② 「子ども中心の学び」を意識した授業の公開について

授業公開に当たっての留意点

- ・ 年に1回は、全職員に向けて授業公開を行う。
- ・ 指導案の形式は自由とし、子どもの実態や学習活動への考え、ねらい、活動内容が分かるものを作成し、全職員に示すようにする。
- ・ 公開授業の指導案については、公開の1週間ほど前までに、部会検討を行う。主幹教諭や教務主任と相談の上、会議が設定されていない月曜日または木曜日に設定することが望ましい。
- ・ 低・中・高の学年部会で実践に取り組むことも可能だが、時間を変えて一人一実践行うこととする。
- ・ 公開授業は、原則同じ部会の職員で参観する。
- ・ 学年主任を中心に、部会で事後の検討会をもつようにする。その際、どのような教師の支援が、「子ども中心の学び」につながっていたかという観点から、子どもの様子や、教師の支援について検討するようにする。
- ・ 公開授業が同じような時期に重ならないよう、調整を図る。

③ 実践の成果を保護者へ伝達

実践後、部会で実践報告書をまとめ、学校だよりや懇談会等で保護者に伝達するようにする。

④ 実践の報告

- ・ 全職員が集まって9月に中間報告会、3月に全体報告会を行う。
- ・ 公開授業の指導案は「共有ファイル→教務→努力点→令和7年度→06指導案・まとめ→☆年」に保存する。

(4) 運営の方法

① 推進委員会の設置

- 校長・教頭・主幹教諭・校務主任・教務主任・各学年推進委員で構成する。

② 部会の設置

- 低学年、中学年、高学年の三つの部会で構成する。
- 具体的な研究実践を進める母体となる。学年主任が司会を務めて、会を進める。

③ 全体会の設置

- 全職員で構成する。
- 必要に応じて行い、全体計画の検討と決定、成果と課題の報告及び共通理解の場とする。

④ 年間計画

月	日	会名	内容
4	3	努力点推進委員会	本年度のテーマについての話し合い
4	10	努力点全体会	『「子ども中心」に迫るための教師支援』についての意見交換会
5	下旬		年間を通じての教師一人一人の目当てと、およその実践予定時期を決めて提出
1	学期中		前期実践の検討と実施 報告書の作成
9	下旬	努力点全体会	前期実践の中間報告会と意見交換会
2	学期中		後期実践の検討と実施 報告書の作成
3	学期中		後期実践の検討と実施 報告書の作成
3	月上旬	努力点全体会	実践報告会
3	中旬	努力点推進委員会	次年度推進計画の提案と検討